

聖書日課 『からし種』 2021.2.21-2.28

<p>2月21日 (日) コヘレト 12章</p>	<p>「我が子よ、心せよ。書物はいくら記してもキリがない。学びすぎれば、体が疲れる。すべてに耳を傾けて得た結論。『神を畏れ、その戒めを守れ。』これこそ人間のすべて」(12-13節)。この地上の出来事を理解したとしても、それは空しいだけで、すべてを知ったうえで一番大切だったのは、「神を畏れ、その戒めを守る」ことだと聖書に記されている。</p>
<p>22日 (月) 雅歌 1章</p>	<p>「教えてください、わたしの恋い慕う人、あなたはどこで群れを飼い／真昼には、どこで群れを憩わせるのでしょうか」(7節)。最も素晴らしい歌と訳される雅歌。イスラエルと神との関係を結婚祝宴歌に重ねて歌われている。「わたしは良い羊飼いである」(ヨハネ10・11)と命に導いてくださる羊飼い、イエス・キリストが語る言葉にもつながる歌がここにも記されている</p>
<p>23日 (火) 雅歌 2章</p>	<p>「おとめたちの中にいるわたしの恋人は／茨(いばら)の中に咲き出でたゆりの花」(2節)。「茨」は、岩の裂け目とも訳される言葉。植物が育たないはずの岩場の小さな小さな隙間から咲き出でるゆりの花にも主は目をかけて下さり、その成長を見守ってくださる。「わたしの目にあなたは値高く、貴い」(イザヤ43・4)と語りかけてくださる主と共に歩みたい。</p>
<p>24日 (水) 雅歌 3章</p>	<p>「起き出して町をめぐり／通りや広場をめぐって／恋い慕う人を求めよう。求めても、あの人は見つかりません」(2節)。目を覚まして慕う人を待ち望むことは、福音書の花婿の到着を待ち望むたとえ話(マタイ25章)に似ている。いつくるかわからないキリストの再来をうとうとしながらも私たちは期待して待ち望みます</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2021.2.21-2.28

<p>25日 (木)</p> <p>雅歌 4章</p>	<p>「北風よ、目覚めよ。南風よ、吹け。わたしの園を吹き抜けて／香りを振りまいておくれ。恋しい人がこの園をわがものとして／このみごとな実を食べてくださるように」(16節)。雅歌は神と人間の語り合いのよう。婚宴の歌の中に、豊かな実りに溢れている神の国の再来を見る。その時まで、主の香りに満ちる礼拝をささげるわたしたちとされたい。</p>
<p>26日 (金)</p> <p>雅歌 5章</p>	<p>「戸を開いたときには、恋しい人は去った後でした。恋しい人の言葉を追って／わたしの魂は出て行きます。求めても、あの人は見つかりません。呼び求めても、答えてくれません」(6節)。戸口をたたくのは、キリスト。戸口を開ける？のは「わたし」(黙示録3・20)。主の呼びかけに日々備えつつ、いつでも戸を開くことができるわたしとされて。</p>
<p>27日 (土)</p> <p>雅歌 6章</p>	<p>「曙のように姿を現すおとめは誰か。満月のように美しく、太陽のように輝き／旗を掲げた軍勢のように恐ろしい」(10節)。主の出来事は、時に「軍」が攻めてくるようにも見える。しかし、主が私たちのもとに来てくださったときも、ローマという力に苦しむ人たちがいた。そのただ中にインマヌエルなる主イエス・キリストがお生まれになったことを覚えたい。</p>
<p>28日 (日)</p> <p>雅歌 7章</p>	<p>「もう一度出ておいで、シュラムのおとめ／もう一度出ておいで、姿を見せておくれ」(1節)。雅歌の中で愛を交わす男女は、求め合いながらすれ違い、なかなか会えない。まるで神が呼んでいる時には私たちが姿を隠し、私たちが神を呼ぶ時にはその姿を見つけられないのと同じように。その私たちを見つけ出し、礼拝に招いてくださる主イエスの恵みを覚えて。</p>